

高血圧症通院者 100 名について 2009 年から 8 年目の 健康管理の実際と〈開業医機能〉についての検討

西宮市 広川内科クリニック 広川 恵一 (医師)

【共同研究者】 木村優美 廣川秋子 渋谷淑子 藤田知子 後藤由加利
杉本真知子 新井麻友 法田美津子 宮本京子 広川江美子

【目的】

日常の診療は治療はもとより「元気でよく生きたい」という願いや希望を共有する場である。慢性疾患で通院の中止がみられるときその原因・背景や治療内容などを検討することはそのためにも有用である。高血圧通院者の経年的観察からこれらについて検討を行う。

【方法】

2009 年に任意抽出した高血圧症通院者の 100 名 (男性 38 名・女性 62 名)のうち、2017 年 3 月～5 月に継続中の 67 名(男性 22 名・女性 45 名)と通院中止の 33 名(男性 16 名・女性 17 名)について I 中止の背景と現通院者のリスク、II 降圧と薬剤使用状況、III 死因とその背景を調査する。

【結果】

I ①通院継続中 67 名は男性 22 名 57～91 才 (平均 75 才)、女性 45 名 53～95 才 (平均 76 才)。中止の 33 名は男性 16 名、女性 17 名であった。②中止の 33 名は中断 2 名、高齢者施設入所 3 名、転院 8 名、死亡 20 名であった。③通院 67 名のうち癌罹患は 17 名(大腸癌 4 名、肺癌 3 名、胃癌 2 名、食道癌 2 名、直腸癌 2 名、膀胱癌 1 名、骨肉腫 1 名、多発性骨髄腫 1 名、子宮癌 1 名)であった。

II 中断後再受診の 2 名を除いた 65 名の平均血圧は 127/74 で 140/90 未満は 57 名であった。

平均降圧剤数は 1.6 剤で 0 剤 6 名、1 剤 20 名、2 剤 30 名、3 剤 9 名、4 剤以上 0 名であった。

III 死亡 20 名は男性 9 名・女性 11 名(平均年齢 86 才)で、癌 8 名 (肝癌 1 名・膵癌 2 名・大腸癌 1 名・肺癌 2 名・胆嚢癌 2 名)、心筋梗塞・心不全 7 名、呼吸不全 2 名、老衰 2 名、肺炎 1 名であった。

【考察】

I 中止の背景は転院・施設入所と死亡で通院者の4人に1人は癌既往あり重要な課題である。

II 平均使用降圧剤数は1.6剤で降圧効果がみられ薬剤見直しは大切な課題である。

III 予後には ①高齢 ②臓器不全 ③認知症 ④生活環境・心理上の問題等が複合し開業医療機能が求められた。